

ICF倫理規定

rev. 06.25.21

国際コーチング連盟(ICF)の倫理規定は、以下の5つの主要な部分から成り立っています。

1. はじめに
2. 主要な定義
3. ICFのコアバリューと倫理的原則
4. 倫理基準
5. 誓い

1. はじめに

ICF倫理規定は、国際コーチング連盟(ICFコアバリュー)、倫理的原則、およびすべてのICFプロフェッショナル(定義を参照)のための行動倫理基準を説明しています。これらのICF倫理基準に従うことは、ICFコアコンピテンシ(ICFコアコンピテンシ)の最初であり、「倫理実践を実証し、コーチングの倫理規定と基準を理解し、一貫して適用する」というものです。

ICF倫理規定は、以下の目的でICFとグローバルなコーチングプロフェッションの誠実さを守ります：

- ICFコアバリューと倫理的原則に一致する行動基準を設定する。
- 倫理的な考察、教育、意思決定を導く。
- ICF倫理行動レビュー(ECR)プロセスを通じてICFコーチの基準を裁定し、維持する。
- ICFが認定するトレーニングプログラムにおけるICF倫理トレーニングの基盤を提供する。

ICF倫理規定は、ICFプロフェッショナルが自らをそのように表現する場合、すべてのコーチング関連の相互作用に適用されます。これは、コーチング関係(定義を参照)が確立されているかどうかにかかわらずです。この規定は、コーチ、コーチスーパーバイザー、メンターコーチ、トレーナーまたはコーチ学生、ICFリーダーシップの役割を果たしている場合、およびサポートパーソン(定義を参照)として行動するICFプロフェッショナルの倫理的義務を明示しています。倫理行動。

倫理行動レビュー(ECR)プロセスと誓いはICFプロフェッショナルにのみ適用されるものの、ICFスタッフもICF倫理規定の基盤となる倫理的行動規範およびコアバリューと倫理的原則に対して倫理的な行動を約束しています。

倫理的に仕事をする課題は、メンバーが予期せぬ問題に対応し、ジレンマを解決し、問題の解決策を見つける必要があるということを示します。この倫理規定は、コードに従う対象の人々が考慮すべき様々な倫理的要因への導きと、倫理的行動にアプローチする代替方法を特定するのに役立つことを意図しています。

ICFプロフェッショナルは倫理規定を受け入れることで、難しい決定を下すか、勇気をもって行動する場合であっても、倫理的であることを心がけます。

2. 主要な定義

- クライアント - コーチングされている個人またはチーム/グループ、指導されているコーチ、またはトレーニングされているコーチまたは学生コーチ。
- コーチング - クライアントと協力して、彼らが個人および職業上の潜在能力を最大限に発揮するようにする考えを喚起する創造的なプロセス。
- コーチング関係 - ICFプロフェッショナルとクライアント/スポンサーが合意または契約の下で確立した、各当事者の責任と期待を定義する関係。
- コード - ICF倫理規定
- 機密保持 - コーチングエンゲージメントで取得された情報を、同意がない限り保護すること。
- 利害の衝突 - ICFプロフェッショナルが複数の利益に関与し、一方の利益に仕えることが他の利益と対立する可能性がある状況。これは、財政的なもの、個人的なもの、その他である可能性があります。
- 平等 - すべての人が人種、民族、国籍、色、性別、性的指向、性同一性、年齢、宗教、移民の状態、精神または身体の障害、および人間の違いの他の分野に関係なく、包括性、資源へのアクセス、機会を経験する状況。
- ICFプロフェッショナル - ICFメンバーまたはICFクレデンシャル保持者として自己を表現する個人。コーチ、コーチスーパーバイザー、メンターコーチ、コーチトレーナー、およびコーチングの学生などの役割に限らず、さまざまな役割で
- ICFスタッフ - ICFのために専門の管理および行政サービスを提供するマネージングカンパニーによって契約されたICFのサポートスタッフ。
- 内部コーチ - 組織内で雇用され、その組織の従業員を兼任または専任でコーチする個人。
- スポンサー - コーチングサービスの支払いや提供、または定義するエンティティ(その代表を含む)。
- サポートスタッフ - ICFプロフェッショナルのクライアントをサポートするために働く人々。
- システミックな平等 - ジェンダー平等、人種平等、および他の形態の平等は、コミュニティ、組織、国家、社会の倫理、核となる価値観、政策、構造、および文化に制度的に組み込まれている平等の形態。

3. ICFのコアバリューと倫理的原則

ICFの倫理規定は、ICFの核となる価値観(リンク)およびそれらから派生する行動に基づいています。すべての価値観は同じくらい重要であり、お互いをサポートしています。これらの価値観は理想を示すものであり、基準を理解し解釈する手段として使用されるべきです。すべてのICFプロフェッショナルは、すべての対話でこれらの価値観を披露し、広めることが期待されています。

4. 倫理基準

次の倫理基準は、ICFプロフェッショナルの専門活動に適用されます：

セクションI – クライアントへの責任

ICFプロフェッショナルとして、私は：

1. コーチングクライアントおよびスポンサーが、初回のミーティングの前または初回のミーティングで、コーチングの性質と潜在的な価値、機密保持の性質と限界、財政取決め、およびコーチング契約のその他の条件を理解するよう説明し確認する。
2. サービス開始前に、私のクライアントおよびスポンサーに関与するすべての当事者の役割、責任、権利に関する合意/契約を作成する。
3. 合意した通り、すべての当事者との厳格な機密保持を維持する。私は個人データおよび通信に関連するすべての適用法に準拠することを認識し同意する。
4. すべてのコーチング対話中において、すべての当事者の間で情報がどのようにやりとりされるかについての明確な理解を持つ。
5. クライアントおよびスポンサーまたは関係者と共に、情報が機密保持されない条件についての明確な理解を持つ(例：違法行為、法によって要求される場合、有効な裁判所命令または召喚状に基づく場合、自分または他者に危険が迫っている場合など)。上記の状況のいずれかが適用されると合理的に信じる場合は、適切な機関に通報する必要があるかもしれません。
6. インターナルコーチとして働く場合、コーチングクライアントおよびスポンサーとの間での利益相反や潜在的な利益相反をコーチング契約および継続的な対話を通じて管理する。これには組織の役割、責任、関係、記録、機密保持およびその他の報告要件を含むべきである。
7. 専門的な対話中に作成されたすべてのレコード、電子ファイル、および通信を、機密保持、セキュリティおよびプライバシーを促進し、適用法および契約に準拠する方法で管理、保存、および廃棄する。さらに、コーチングサービスで使用されている新興および進化中の技術の適用に適切に対処し、それに関連するさまざまな倫理基準を認識するよう努める。
8. コーチング関係から得られる価値に変化が生じている兆候に注意を払う。その場合は、関係を変更するか、クライアント/スポンサーに他のコーチを探すか、他の専門家を探すか、異なるリソースを利用するよう奨励する。
9. 契約の規定に従って、コーチングプロセス中にいつでもクライアントがどの理由であれコーチング関係を終了する権利を尊重する。
10. 同じクライアントおよびスポンサーと同時に複数の契約および関係を持つことによる利益相反の状況を避けるために、慎重に行動する。
11. クライアントとの間に文化的、関係的、心理的、または状況に起因する権力または地位の違いを適切に認識し、積極的に管理する。
12. クライアントに、クライアントを第三者に紹介することで受け取るかもしれない補償およびその他の利益の可能性を明示する。
13. すべての関係において合意された報酬の量または形式にかかわらず、一貫したクオリティのコーチングを保証する。

セクションII – 実践およびパフォーマンスへの責任

ICFプロフェッショナルとして、私は：

14. すべての対話でICF倫理規定を遵守する。自分自身または他のICFプロフェッショナルが倫理規定の違反を起こしていると気づいた場合、関係者に丁重に問題を提起する。これが問題を解決しない場合、問題を公正に解決するために形式的な機関(例：ICFスタッフ)に言及する。
15. サポートスタッフ全員にICF倫理規定の遵守を求める。
16. 持続的な個人、専門家、および倫理的な開発を通じて卓越性にコミットする。
17. コーチングパフォーマンスまたは専門的なコーチング関係に影響を与える可能性のある個人の制約または状況を認識する。対応すべき行動を判断するためにサポートを求め、必要に応じて迅速に関連する専門的なガイダンスを求める。これにはコーチング関係を一時的に中断または終了することが含まれる場合があります。
18. 関連する当事者と問題を解決するか、専門の支援を求めるか、一時的に中断またはプロフェッショナル関係を終了することで、利益相反または潜在的な利益相反を解決する。
19. ICFメンバーのプライバシーを維持し、ICFまたはICFメンバーの許可に基づいてICFメンバーの連絡先情報(電子メールアドレス、電話番号など)を使用する。

セクションIII – 専門性への責任

ICFプロフェッショナルとして、私は:

20. コーチング資格、コーチング能力のレベル、専門知識、経験、トレーニング、認証、およびICF資格について正確に識別する。
21. ICFプロフェッショナルとして提供するもの、ICFが提供するもの、コーチング職業およびコーチングの潜在的な価値について真実で正確な口頭および書面の声明をする。
22. この規定によって確立された倫理的な責任に通知される必要のある人々とコミュニケーションし、認識を作成する。
23. 相互作用、物理的またはその他の方法を規制する適切で文化的に感応的な境界を明確に設定する責任を持つ。
24. クライアントまたはスポンサーとの性的またはロマンチックな関与に参加しない。関係に適した親密さのレベルを注意深く考慮し、問題に対処するか、関与をキャンセルする適切な行動を取る。

セクションIV – 社会への責任

ICFプロフェッショナルとして、私は:

25. 全ての活動および業務において公平かつ平等を保ち、地元の規則と文化的慣習を尊重し、差別を避けます。これには、年齢、人種、性別表現、民族、性的指向、宗教、出身国、障害、または軍の地位に基づく差別が含まれますが、これに限定されません。
26. 他者の貢献と知的財産を認識し尊重し、自らの素材の所有権を主張することだけに留まります。この標準の違反は、第三者による法的救済を受ける可能性があることを理解しています。
27. 研究を実施および報告する際には、公認された科学的基準、適用可能な主題のガイドライン、および自分の専門的な範囲を守り、誠実であることを心がけます。
28. 私と私のクライアントの社会への影響を認識します。私は「善を行う」哲学に従い、「悪を避ける」ことよりも重要であると考えます。

ICFプロフェッショナルの誓約

ICFプロフェッショナルとして、ICF倫理規定の基準に従い、私は自分の倫理的および法的な義務を私のコーチングのクライアント、スポンサー、同僚、および一般の人々に対して果たすことを認識し、同意します。

もしICF倫理規定のどの部分にも違反した場合、ICFはその違反に対して私を責任追及する権利を有していることに同意します。さらに、ICFに対する私の責任は、強制的な追加のコーチトレーニングや他の教育、またはICFメンバーシップおよび/またはICF資格の喪失など、制裁を含む可能性があります。

ICFグローバル取締役会採択: 2019年9月

© 2021 International Coaching Federation

以上